館報 いしわた

第178号
発行所　石渡公民館
発行人　吉野正年
編集　広報部
印刷所　(株)双真

ご成人おめでとうございます

成人式2年ぶり開催　感染対策徹底

快晴に恵まれた1月2日、朝陽地区の成人式が朝陽公民館で行われました。昨年は新型コロナの影響で中止となり2年ぶりの開催。会場には、石渡地区はじめ8地区から64人の新成人（石渡区は14人）が出席、人生の節目を祝いました。

朝陽公民館、同住民自治協議会の主催で、会場ではマスク着用や手指消毒、健康チェックシートの提出、ソーシャルディスタンス、真正面の会話禁止など新型コロナ感染防止策を徹底。記念写真も撮影の瞬間だけマスクを外して撮影、式典後の祝宴も中止となりました。

式典は、長野市歌を心の中で歌い、記念品の贈呈と進み、祝辞では就任したばかりの荻原健司市長が、「長野冬季五輪で世界のナガノになった長野市に生まれ育ったことを誇りに、新たな人生に大きく力強くはばたいてほしい」と激励。

続いて地元の西脇かおる市会議員、市選挙管理委員からも祝辞が述べられました。新成人を代表し、南堀の千野温史さんが抱負を述べ、石渡区の会社員岩野公紀さんは「人の役に立てる人間になりたい」と決意を語ってくれました。

式典後は同市出身の歌手汐入規予さんが記念演奏。ピアノを弾きながら、「Fly me to the moon」、「夜明けをくちずさめたら」など5曲を熱唱。新成人らは会場いっぱいに声量あふれる演奏に聴き入っていました。

一瞬マスクを外し記念撮影に納まる石渡区の新成人ら

メッセージボード背景に記念撮影

「大きくはばたいて」。
祝辞を述べる荻原健司長野市長

成人式出席者

（敬称略）

岩野　公紀	木下あかね
小島亜理沙	小林　純也
小林　尚樹	小林　奈瑚
佐々木愛花	高橋　亜美
高橋　勇貴	田川　空磨
千野　龍	原山　光聖
丸山　稜太	村越　蒼大

石渡区文化祭 作品展示会

～新装御神楽、子供みこし披露～

令和３年度の石渡区文化祭が昨年11月７日、公民館で開催されました。今回も昨年同様新型コロナ感染拡大防止のため展示のみで、演芸大会、懇親会は中止となりました。

会場となった大会議室では、昨年春から準備を進め飯山市で完成、開催直前に区に届いたばかりの御神楽と子供みこしが初めて区民に披露されました（※注釈参照）。早速、石渡神楽保存会の皆さんが、太鼓や笛のお囃子とともに初めて演奏、会場は一転お祭り気分になりました。

新調された紅白の垂れ幕に囲まれた会場には、写真や生花の各クラブ、竹細工、編み物、プラモデル、絵手紙などに加え信大附属特別支援学校、みかさ幼稚園からの作品が並びにぎやか。

中でも初めて出品の畑光子さんの沈金・漆器、前回までの折り紙からボールペンとコンパスなどで描き上げた平塚賢次さんの幾何学アートが人目を引いていました。

鑑賞時間が長く、昨年より倍近い100人超の区民が来場し芸術の秋を堪能しました。最後に倉澤伸治さん手作りの竹細工が区民にプレゼント、抽選会は大いに盛り上がり閉会しました。

※新しい御神楽と子供みこしは、「一般財団法人自治総合センター」が宝くじの収益で行うコミュニティ助成事業により製作しました。この事業は、宝くじの普及広報、コミュニティの健全な発展を目的に自治会などへ助成するもので、石渡区もこれを利用し整備しました。

初披露された御神楽。区民も飛び入りで太鼓演奏

初めて出品の畑光子さんの沈金・漆器

ボールペンのみで描き上げた平塚賢次さんの幾何学アート

靴下、マフラーなど戸谷愛子さんの毛糸の編み物

御神楽、子供みこし、多くの作品が並びにぎやかな作品展会場

作品名	出展者
生花	生花クラブ
写真	写真クラブ
鉢盆栽、ひな飾り、ベビー服など	小山 武子
コースター、幾何学アート	平塚 賢次
竹細工	倉澤 伸治・倉澤 利雄
竹細工	中島　弘
絵手紙	関　英子
クラフト作品	宮坂 貞夫
飛行機のプラモデル	坂口　治
刺しゅう、キルトバッグ	蟻田 江美子
木彫り	増田 千秋
毛糸の編み物	戸谷 愛子
沈金、漆器	畑　光子
ミニバイクのプラモデル	小林 正幸
パステルアート・シャインカービング	藤沢　朋
手作り小物	信大附属特別支援学校
絵画、指人形	みかさ幼稚園児

倉澤伸治さん手作りの竹細工。抽選で区民にプレゼントされた

生花クラブの作品で会場は華やいだ雰囲気に

人権擁護講座

～女性の人権について～

石渡区人権擁護講座が昨年12月4日(土)、公民館で開かれました＝写真。「女性の人権について」をテーマに、県人権啓発センターの篠原康広人権啓発・相談員が暮らしの中に潜む人権問題を講演しました。

最近よく耳にする「ジェンダーとは?」から始まり、社会の中で女性に関わるセクハラや女性蔑視、DV(性的暴力)などを挙げ、女性は不利な立場にある。元々ジェンダーは、生まれながらにして植え付けられた「社会・文化的な性的役割分担」で、「男らしさ・女らしさ」はあまりにも当たり前と思われているところに女性の人権の大きな落とし穴があると分かりやすく解説してくれました。

性別の区別がなく誰もがその人らしく生きるのがジェンダーにとらわれない社会。そうなるには「安心」、「自信」、「自由」の3つが必要で、実現には家庭やご近所、職場、学校などで人と人とのつながりを作ること。特に、新型コロナ下で希薄になっているのでなおさらと力説していました。

そして、つながりを作るには、「身近なところから『あいさつ』をして感謝の気持ちを表現できるように」と提案。差別的な言動をせず、お互いの人権を尊重することが第一歩で、「常に感謝の気持ちを持ち、それを言葉に表してみましょう」と講演を締めくくりました。

感謝の気持ちを言葉に

聴講者は18人（女性4人）でしたが、2常会の倉澤良貞さんは「家族への『ありがとう』は一番言えていないかも知れない。照れずに感謝の気持ちを表現したいですね」と納得した様子でした。

しめ縄飾り・門松作り～文化教養講座～
門松　新成人を祝福

石渡公民館文化教養講座(しめ縄飾り・門松作り)が昨年12月11日(土)、公民館で開かれました=**写真右**。区内の飯島源一さん、倉澤伸治さん、倉澤利雄さん、竹内弘明さん、武田徳雄さんを講師に、親子連れなど21人が参加し伝統のお正月飾り作りに挑戦しました。

最初に、稲わらを扱いやすく柔らかにするため、水や霧吹きなどで十分湿らせるところから始まりました。次にわらをよる(巻く)作業。慣れない手つきに、「両手、両足、お尻も使い全身を使って作り上げていくもの」とコツを伝授。大会議室いっぱいに広げられたブルーシートの上で、参加者は服に稲わらが付くのも気にせず、真剣な表情で取り組んでいました。

しめ縄飾りには色々なものがあり、講師は「生花やドライフラワー、ユズなどを差し込んで好みの形に仕立て、オリジナルを作って楽しんでみては」。親子3人で参加した4常会の小林優音さん(小3)は「わらを両手で巻いていくところがとても難しかった。でも来て良かった。楽しかったです」と悪戦苦闘して作り上げたしめ縄飾りを大事そうに抱えて笑顔でした。

玄関前では、竹筒を切って門松作りも。出来上がった門松一対はそのまま飾られ、公民館は一足早いお正月を迎えました。年明けの1月2日、朝陽公民館で行われた成人式に“出張”、玄関先で新成人の門出を祝福しました=**写真右下**。

クラブ紹介「大正琴クラブ」
何とも魅力な音色

師走2日の公民館大会議室南。机に置かれた大正琴1台1台の調律の音が響く。「気温や湿度、練習などで伸びてしまった弦の音の調整」と代表の小山のぶ代さん。

この日集まったのはお休み中の男性会員を除く女性会員5人。豊野町在住の琴城流大正琴長野支部長の三井利恵さんを講師に練習が始まった＝**写真上**。コロナ禍で昨年に続き春から9月に延期された支部発表会が終わったばかり。

次回に向けての練習は今回が2度目という。会から与えられた楽譜は、「忘れな草をあなたに」、「ブルーシャトー」、「終着駅」など7曲。筆者も若いころに口ずさんだお馴染みの歌ばかりで懐かしい。

「さあ、いきましょう」。電気仕掛けでメロディーに合わせたリズムが流れる講師の琴に合わせ、軽やかな弦の音が部屋いっぱいに鳴り響く。

大正琴は、大正時代に生まれた弦楽器。長さ65センチほどの木製で、弦は5本。右手に持つプラスチック製のピックで弦の右側をはじく。同時に、手前に出た鍵盤状のボタンを左手で押下して演奏する。楽譜には、音符の下に洋数字と押下する指(親、人、中、薬…)が付記、それを目で追いながら、鍵盤にある数字を押す。楽譜を見ながら両手を同時に使わなければならず、脳トレ、高齢者の老化防止に最適という。

石渡では昭和51年に婦人会の10人ほどが集まり弾き始め、間もなく三井さんを講師に迎え入れてクラブ活動がスタートした。当時から今でも稽古に顔を出し演奏を続けている2常会の池田元子さん(90)は、「音色が何とも言えずいいね」。魅力を語ってくれました。

クラブ員の皆さん
(前列中央が三井利恵講師、
左が池田元子さん)